

とある母子の日常

友人たちと遊び終え公園から帰ってきた息子の

巨大なペニスを夢中で啜える母親

息子の和晴（かずはる）は先ほど公園へ遊びに行きました。

昼下がりの陽気な気候。時計の短針は2時を回ろうとしています。私はダイニングキッチンの椅子に座ってパラパラと女性雑誌をめくっていました。

とりとめのない意識の中、目に留まったのは“女性の性”に関する記事。

パートナーとのあらゆるセックスの深め方が記述されていました。

やはりこれは私が無意識にそんなことを考えているからでしょうか？

気が付けば私の右手の小指は唇の端っこに伸びていました。

口内のどこかしこから生ぬるい唾液が溢れ、指の先端は瞬く間に湿ってしまいます。

「はあああ・・・」

漏れる吐息。だけどそれは決して憂鬱によるものではなく、

心地良い期待によるもの。

ガラス戸の向こうにぼんやり目を向け、淫乱な光景の数々を巡らせてみます。頭の中に鮮明に浮かび上がるリアルな痴態たち。

だけど、これは

“妄想”

などではないのです。

どこかの誰かが決して手が届かないと思っているようなことが私の生活

には **“現実”** として存在しているのですから・・・。

期待はもうすぐ現実に変わります。

私は **“このひとときだけ”** の欲求不満な女なのです。

「ただいまあーっ！！！」

しばらくして和晴が帰ってきました。

「あっ！！お帰りっ！！早かったわねっ！！」

私は玄関に駆け寄り、笑顔で出迎えます。

「遊び疲れたよママ！！」

元気にそう言った和晴は、その場でためらうことなく衣服を脱ぎ始めました。何て大胆なのだろうといつも思うのですが、ズボラなところがまた可愛くて大好きでもあるのです！！

「お友達と遊び疲れた後はママと裸で遊ぶのよね！！フフッ！！」

「そうだよっ！」

「まだ体力は残ってる？」

上目遣いで和晴に、わざわざ聞かなくても答えが分かっている問いかけをする私。

体験版はここまでです。

もし内容を気に入っていただけましたら、

続きを製品版でお楽しみいただけますと光栄です。